

膵・胆管腫瘍に対する動脈合併切除術前の動脈塞栓術の有用性についての検討の研究 についてのご協力をお願い

1. 研究意義

膵癌、胆嚢癌は未だ予後が悪く、もっとも予後の改善、完治を期待出来る治療法としては手術です。しかしこの手術には大きな侵襲が伴います。近年、手術技術の発達に伴い、膵や胆管の局所進行癌も切除出来るようになってきました。その際、腹腔動脈、総肝動脈、脾動脈や上腸間膜動脈といった腹部大動脈の主要分枝もしくはその2次分枝を合併切除せざる得ない場合があります。術中にこのような腹部大動脈の主要分枝を結紮切断する事は大きな手術侵襲を与え、胃、胆嚢、肝などの虚血による術後合併症が多いと考えられており、最近では術前に結紮切断する予定の主要動脈に術前動脈塞栓術を行い側副路の発達を促してから手術を行うという方法が行われています。しかし、術前の塞栓術の有用性について検討された研究は少なく、術前の塞栓術の有用性についてはいまだ不明であり、これを明らかにすることは今後同様の症例において有益と考えられます。

2. 研究の目的

膵・胆管腫瘍動脈合併切除症例において、術前塞栓術が手術侵襲低減に有用であるか明らかにします。

3. 研究の方法

2008年8月から2012年12月までに広島大学病院で、膵もしくは胆管の局所進行癌に対して腹部大動脈主要動脈分枝の合併切除および膵頭部切除もしくは膵体尾部切除を受けられた患者さん(17名)を対象とします。各症例で得られた術前後検査、画像検査、臨床情報臨床(合併症、入院期間)カルテより収集し、術前塞栓術を受けた患者さんと受けなかった患者さんを比較検討します。

4. 研究期間

承認後 ～ 平成 27 年 3 月 31 日

5. 個人情報保護の方法

- (1) 対象患者さんのカルテ、画像に記載された個人情報はずべて匿名化した上で研究に使用します。
- (2) 学会誌や学会での発表等、調査結果を公表する際、個人情報は一切公表しません。
- (3) この研究で収集したすべての情報は、この研究の目的以外では使用いたしません。
- (4) データーは外部と独立したコンピューターで管理し、パスワードによるログイン機能の付加、コンピューターをセキュリティーの厳重な部屋に保管する。
- (5) 収集した患者さんのデーターは、研究公表後データーはずべてコンピューター上から削除、書類はシュレッダー等で処理した上で廃棄します。

6. この研究に関してお問い合わせ、ご意見がございましたら下記にお問い合わせ下さい。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出下さい。お申し出頂いても今後の診療等に不利益を生じることはありません。

研究機関・研究責任者

広島大学病院放射線診断科 助教 石川雅基

連絡先 広島大学放射線診断科 082-257-5257